

シリーズ西浦上地区の史跡めぐり

人びとの心のよりどころとなってきた、様々な史跡がこの西浦上地区には存在します。

シリーズで紹介していきます。

第1回目は、『小角神社』。

浦上水源地のそばの小高い丘に、道行く者を静かに見守るかのように佇んでいます。

『小角神社』の由来は、数百年前にさかのぼると言われていますが、直接的には明治初め、小角勇吉という人が、自分の山に放置された残神物を祭ったことによる*¹とされています。



銀世界の中に行む小角神社、一層厳かな雰囲気になっています。

¹ *：西浦上東部地区長崎市編入記念誌「郷土のあゆみ」まちの風土記アラカルトより

シリーズ西浦上地区の史跡めぐり

人びとの心のよりどころとなってきた、様々な史跡がこの西浦上地区には存在します。

第2回目は、長崎市編入前の隆盛、原爆の悲劇、そして復興、と現在のまでの西浦上地区の歩みを物語る史跡、『旧西浦上村役場跡』。

今から80年余前、当時としては、洗練されたデザインの木造2階建て、葺瓦葺の洋風建築が建設されました。

昭和9年1月18日に新築・開庁をしたときには、一般村民に、御酒代がふるまわれたといわれるほど盛大な「祝賀会」が開催されました。

しかし原爆により庁舎は破壊され、町は壊滅状態となりました。

唯一残された『西浦上村役場』の表札。今は住吉中央公園前の石碑の中に安位の地を得て、町の風景に溶け込んでいます。



～昭和20年8月9日、原爆により庁舎は破壊されたが、「西浦上村役場」の表札は激しい爆風と熱線にさらされながらも、その姿を残している～



石碑の中に、表札が保管されている。